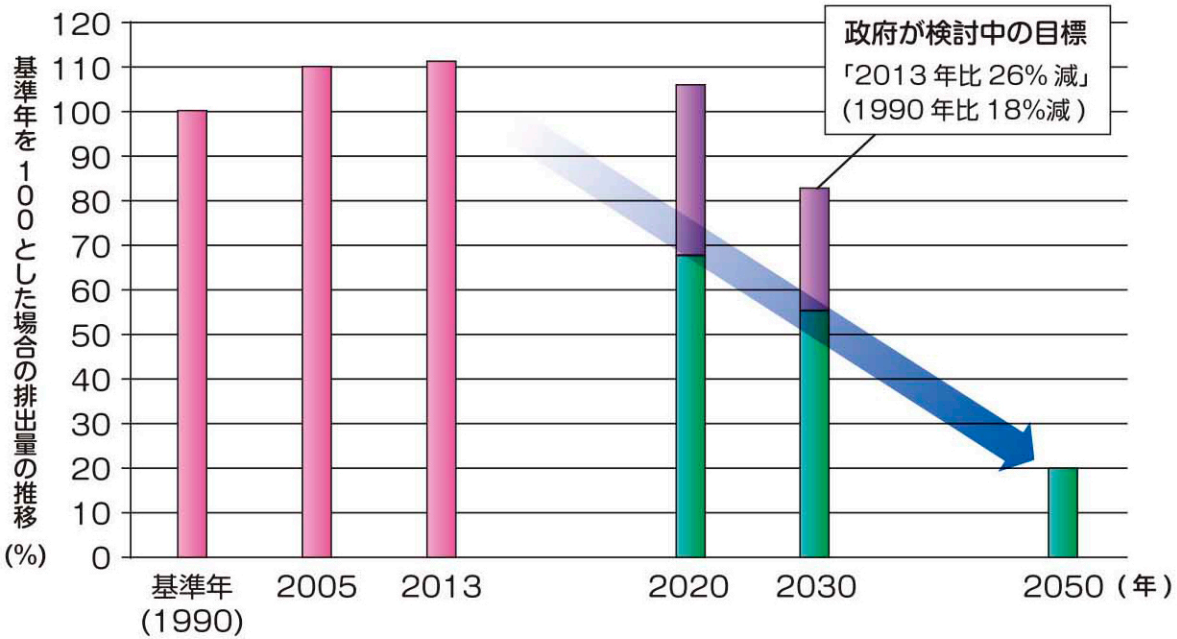


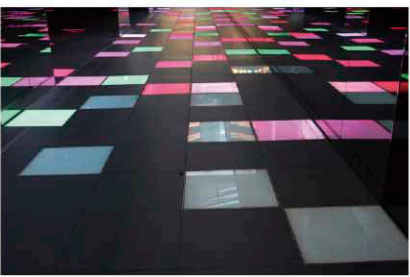
LEDの100%普及と用途拡大

日本の温室効果ガス排出量と削減目標

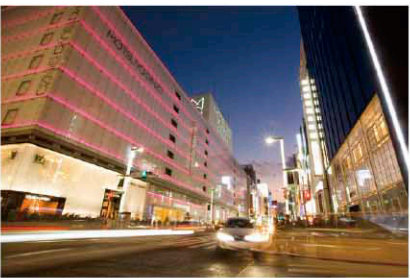
2013年比で2030年26%減=1990年比で2030年18%減



政府は2030年までに温暖効果ガスの26%削減(2013年度比)を国際的に約束しています。さまざまな付帯条件を計算した結果、その実現には今後17%の省エネが必要です。そこでこれまで以上の省エネ策を検討するよう産業界に要請し、その分野は、運輸、生産工場、ビル、電気製品、さらに住宅の断熱材にまで及びます。電材・設備業界では、エアコン、特に暖房時の省エネ化や照明のさらなる省エネ化が求められています。



さらに、NPO法人LED照明推進協議会によりまず、LED照明が活躍する場が広がり、LED照明の市場が拡大しています。ビル



ル壁面装飾照明、道路装飾照明、LED点字ブロック、さらにLED集魚灯など産業界のあらゆる場所にLEDならではの特性を活かした市場が生まれています。その一例が、植物工場用LED照明です。制御された植物栽培用LED光源により、これまで自然光で育ててきた野菜が、収穫量を増やせるだけでなく、生産全体をコントロールできるようになります。育苗期間の短縮、多品種栽培が可能です。さらに



基本的に水耕栽培ですから無農薬の高付加価値野菜を市場に出荷できるなどさまざまなメリットがあり、新しい農業を切り開くものと期待されています。

